

早期体験学習における地域薬局見学の評価

○中村 武夫¹, 伊藤 栄次¹, 松野 純男¹, 桑島 博¹(¹近畿大薬)

【目的】新しい薬学教育は知識・技能・態度を含めた統合型教育であり、学生の学習意欲向上を目的とした科目として早期体験学習がとりあげられている。社会の中で活躍する薬剤師の業務を見聞することは、知識のみならず医療人としての技能および態度を学ぶ上においても効果的であると考えられる。医療薬学科1年生を対象として平成18年度から平成23年度までに実施した早期体験学習「薬局見学」について、地域薬局薬剤師による担当学生の評価を基に地域薬局における早期体験学習の評価について検討した。

【方法】病院・薬局実務実習近畿地区調整機構を通じて依頼し、受け入れていただいた地域薬局にて、医療薬学科1年生が入学年度の8月上・中旬に薬局見学を行なった。見学終了後、担当薬剤師による学生評価(5段階評定尺度)を行なった。なお、受け入れ薬局にはあらかじめチェックシートを用いての学生評価に関する説明を行い、評価後に返送していただいた。また平成19年度以降は大学側が作成した「薬局見学」の一般目標、到達目標をあらかじめ各薬局に配布した。

【結果・考察】身だしなみや態度については概ね良好な評価を得ているものの、数名の学生に対し低い評価を受けている。薬局見学に対する学生の積極性についての薬局薬剤師からの評価は、初年度に比べ、次年度は高くなるものの、翌年は低下し、翌々年はまた改善するという隔年変化が認められた。当該年度の学生の評価結果を次年度の学生に指導することによる結果と推察されるが、学生一人一人が早期から能動的態度で地域薬局における体験学習に参加できるよう、また今後の学習に対するモチベーション向上につなげられるように地域薬局との連携を含めてさらに検討していきたい。